



資料提供年月日	令和4年1月20日	
問い合わせ先	課名	文化振興課
	電話	直通 803-1054 内線 3744
	担当 (職・氏名)	課長 岡村 副主幹 上林 主事 西川

広報連絡 〈市長定例記者会見資料〉

- 1 件 名 第37回「坪田譲治文学賞」の受賞作決定について
- 2 趣 旨 岡山市出身でわが国の児童文学に多大な功績をのこした故・坪田譲治氏（岡山市名誉市民）をたたえる「坪田譲治文学賞」の本年度の受賞作決定について発表します。
- 3 受賞作 『旅する練習』 講談社
乗代 雄介 著
- 4 選考経過 令和2年9月1日から令和3年8月31日までの1年間に、全国で刊行された小説・児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された79作品について、予備選考会を経て候補作4作品を選定しました。
これらを令和4年1月18日（火）開催の選考委員会において審査し、上記の作品が選ばれました。
- 5 贈呈式・記念行事
○日 時：令和4年2月26日（土）14時～15時30分
○場 所：吉備路文学館（北区南方三丁目5-35）
- 6 問い合わせ先
岡山市文学賞運営委員会事務局
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市文化振興課内
TEL：086-803-1054 FAX：086-803-1763
E-mail：bunkashinkou@city.okayama.lg.jp

[添付資料]

- 資料1 第37回「坪田譲治文学賞」受賞作について
- 資料2 「坪田譲治文学賞」について
- 資料3 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧
- 補足資料 取材について

第 37 回「坪田譲治文学賞」受賞作について

(文中敬称略、50音順)

受賞作	『旅する練習』 講談社
受賞者	乗代 雄介
正賞	賞状及び記念品 (メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)
副賞	100万円

◆選考経過

令和2年9月1日から令和3年8月31日までの1年間(※)に全国で刊行された小説、児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された79作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作4作品を選定。

これを、令和4年1月18日(火)開催の第37回坪田譲治文学賞選考委員会(会場:東京都千代田区平河町「ルポール麹町」)で慎重に審査した結果、乗代 雄介著『旅する練習』が選ばれた。

選考委員は、阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都の7名。

※選考の基準日は9月1日(岡山市文学賞条例施行規則第2条)

◆受賞者略歴

作家 乗代 雄介

1986年6月18日北海道江別市生まれ。東京都葛飾区在住。法政大学社会学部メディア社会学科卒業。2015年『十七八より』(講談社)で第58回群像新人文学賞を受賞し、デビュー。2018年『本物の読書家』(講談社)で第40回野間文芸新人賞受賞。2020年『最高の任務』(講談社)で第162回芥川賞候補。2021年『旅する練習』(講談社)で第164回芥川賞候補、第34回三島由紀夫賞受賞。2022年『皆のあらばしり』(新潮社)で第166回芥川賞候補。他の著作に『ミック・エイヴォリーのアンダーパンツ』(国書刊行会)、『掠れうる星たちの実験』(国書刊行会)がある。

◆作品の概要

2020年3月、コロナ禍の春休み。サッカー少女で小学校6年生の亜美と叔父で小説家の私は、予定していた鹿島アントラーズのホームゲーム観戦旅行がなくなり、かわりに千葉県の子孫子駅から、利根川沿いに、徒歩でアントラーズの本拠地・茨城県鹿島をめざす旅に出た。亜美は、ドリブルやリフティングの練習をしながら、私は、風景や鳥、史跡などの写生の練習を続けながら。途中でひよんなことから、4月から就職が決まっているという女子大生みどりも加わって、3人の「歩く、書く、蹴る」の風変わりな旅が続いていく。「本当に大切なこと」を見つけて、それに自分を合わせて、努力してい

くことを亜美は学び、5日間の旅を通して成長していく。感動のロード・ノベル。

◆【参考】今後の日程

- 贈呈式・記念行事 令和4年2月26日（土）14時～15時30分
[岡山] 吉備路文学館
- 祝賀会 令和4年3月17日（木）18時30分～20時
[東京] ホテルルポール麹町

「坪田譲治文学賞」について

(文中敬称略、50音順)

岡山市出身で、わが国の児童文学に新しい分野を拓いた坪田譲治のすぐれた業績を称えると共に、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資することを目的として、昭和59年12月に「坪田譲治文学賞」を制定しました。

◆坪田譲治文学賞

[目的] 岡山市出身の小説家・児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治の文学活動における偉大な業績を称えるとともに、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資する。

※坪田譲治 (つぼた じょうじ)

明治23年(1890年)3月3日生～昭和57年(1982年)7月7日没

[対象] 9月1日を基準日とし、前1年間に刊行された文学作品(小説、児童文学等)。

[選考] 文学・出版関係者等から推薦された作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作4～6作品程度を選定。その中から選考委員が最終選考を行い、受賞作を選定する。

[表彰] 正賞 賞状及び記念品(メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)

副賞 賞金100万円

[選考委員] 阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都(7名)

「坪田譲治文学賞」受賞作一覧

回次	年度	作品名	著者名	出版社名
第1回	S60	心映えの記	太田 治子	中央公論社
第2回	S61	ふたつの家のちえ子	今村 葦子	評論社
第3回	S62	ぼくのお姉さん	丘 修三	偕成社
第4回	S63	四万十川ーあつよしの夏	笹山 久三	河出書房新社
第5回	H1	身がわりー母・有吉佐和子との日日	有吉 玉青	新潮社
第6回	H2	おどる牛	川重 茂子	文研出版
第7回	H3	こうばしい日々	江國 香織	あかね書房
第8回	H4	卵洗い	立松 和平	講談社
第9回	H5	半分のふるさとー私が日本にいたときのこと	李 相琴	福音館書店
第10回	H6	オサムの朝	森 詠	集英社
第11回	H7	泣けない魚たち	阿部 夏丸	ブロンズ新社
第12回	H8	ぼくたちの<日露>戦争	渡辺 毅	邑書林
第13回	H9	ぼくはきみのおにいさん	角田 光代	河出書房新社
第14回	H10	ナイフ	重松 清	新潮社
第15回	H11	ウメ子	阿川 佐和子	小学館
第16回	H12	ニライカナイの空で	上野 哲也	講談社
第17回	H13	翼はいつまでも	川上 健一	集英社
第18回	H14	麦ふみクーツェ	いしいしんじ	理論社
第19回	H15	人形の旅立ち	長谷川摂子	福音館書店
第20回	H16	ペーターという名のオオカミ	那須田 淳	小峰書店
第21回	H17	ぎぶそん	伊藤 たかみ	ポプラ社
第22回	H18	空をつかむまで	関口 尚	集英社
第23回	H19	しずかな日々	椰月 美智子	講談社
第24回	H20	戸村飯店青春100連発	瀬尾 まいこ	理論社
第25回	H21	トーキョー・クロスロード	濱野 京子	ポプラ社
第26回	H22	おれのおばさん	佐川 光晴	集英社
第27回	H23	鉄のしぶきをはねる	まはら 三桃	講談社
第28回	H24	きみはいい子	中脇 初枝	ポプラ社
第29回	H25	世界地図の下書き	朝井 リョウ	集英社
第30回	H26	クリオネのしっぽ	長崎 夏海	講談社
第31回	H27	いと森の家	東 直子	ポプラ社
第32回	H28	Masato	岩城 けい	集英社
第33回	H29	キジムナーkids	上原 正三	現代書館
第34回	H30	ペンギンは空を見上げる	八重野 統摩	東京創元社
第35回	R1	あららのはたけ	村中 李衣	偕成社
第36回	R2	もうひとつの曲がり角	岩瀬 成子	講談社
第37回	R3	旅する練習	乗代 雄介	講談社

●受賞者への取材について

電話取材を希望される場合は、株式会社講談社様へご連絡ください。

◆連絡先

株式会社 講談社 文芸第一出版部 堀沢（ほりさわ）様
電話 03-5395-3504
携帯 090-4919-7339

●書籍について

書籍が必要な場合、文化振興課（上林・西川）までお問い合わせください。

●受賞者の写真、書影について

受賞者の写真、書影データが必要な場合、文化振興課（上林・西川）までお問い合わせください。

